

指定管理者の管理運営に関する評価シート

1 施設

施設名	市民会館、中崎公会堂、市民ホール及び西部市民会館
施設所管課	市民生活局 文化・スポーツ室 文化・国際交流担当
指定管理者	共立・NTT ファシリティーズ共同事業体
指定期間	2020年（令和2年）4月1日～2025年（令和7年）3月31日
指定管理料 （年度毎）	2020年度（令和2年度）決算額 172,214千円 2021年度（令和3年度）決算額 170,793千円 2022年度（令和4年度）決算額 179,343千円 2023年度（令和5年度）決算額 176,229千円
管理体制	<ul style="list-style-type: none"> ・正社員4名 ・正社員以外39名（臨時職員13名、パート職員5名、委託職員16名、シルバー人材センター5名） ・合計43名 〔2024年（令和6年）4月1日現在〕

2 指定管理者評価

<ul style="list-style-type: none"> ・自主事業として、次世代を担う子どもたちが芸術に対する興味や理解を深められるよう「高校生芸術鑑賞教室」、「高校生のための演劇ワークショップ」等を開催した。これらの事業は、芸術観光専門職大学や兵庫県高校演劇研究会東播支部との産学連携事業として実施しており、地域の学校や団体等との関係性を強化したことにより実現した。 ・アウトリーチ事業を実施し、会館まで足を運ぶことが難しい方にも文化に触れる機会を提供した。 ・利用者アンケートからニーズを探り、備品の買い替えやロビーのレイアウト変更などを行ったことにより、利用者の利便性や満足度を高めることができた。 ・突発的な設備の故障に際しては、施設管理担当者の応急処置や協力会社による緊急対応等により、利用者への影響を最小限に抑えることができた。修繕業務については引き続き市と情報共有を図りながら、優先順位をつけて予算を執行するなどの確な施設運営を図る。 ・あかし落語塾の卒業生が市民企画事業として実施した落語公演において、手話通訳者席を設けたり、明石第九合唱団育成事業において初心者練習コースを新設するなど、新たな取組を行った。

3 所管課評価

<ul style="list-style-type: none"> ・貸館の運営状況については、全体としては稼働率が上昇しているものの、施設によっては稼働率の低下が見られることから、その原因分析と稼働率向上に向けた取組を求める。 ・利用者アンケートの結果によると概ね良好な結果となっており、一定の利用者満足度を得ているものと評価できる。引き続き、接遇研修等を通じた職員の意識向上や、利用者寄り添った丁寧な説明、アンケートによる利用者ニーズの把握など、利用者満足度をより一層向上させることを求める。

- ・指定管理者が保有する専門性を活かし、著名なアーティストによる多彩なエンターテインメント事業や次世代育成に重点を置いた事業を展開するとともに、(公財)明石文化国際創生財団をはじめとする本市ゆかりの文化団体、企業などとの連携協力を測りながら、市民の鑑賞機会、参加・発表機会を創出することで文化芸術活動を支援し、市の文化振興に貢献している。
- ・維持管理業務については、施設・設備の老朽化などに伴い必要な修繕が増加する中、利用者の安全性や利便性を考慮しながら、計画的かつ効率的な対応が取られている。また、設備の不具合により急な対応を迫られる場面においても、利用者への影響を最小限に抑えるべく的確な判断と対応を行っている。

4 指定管理者選定委員会による外部評価

- ・西部市民会館については、屋外スペースも含め、図書館や地域と連携しながら地域に密着した施設として活用することで、活性化を図ることができる。また、中崎公会堂については、市指定文化財として相応しい活用をするべきである。
- ・貸館業務については、開館時間の延長を行うなど、柔軟な施設運営が行われている。
- ・施設・設備の老朽化が進んでいる。故障により使用を中止している設備についても修理を行ってほしい。
- ・大ホールでイベントを開催すると駐車場が混雑するので、市庁舎の建て替えに際して、駐車場の台数を十分に確保してほしい。また、イベント終了後に送迎の車やタクシーなどが集まり道路が混雑する。来場者が大型バスを利用する場合もあるので、市民会館前にバスも横づけできるような広いスペースを確保してほしい。